

令和4年度 第1回 学校運営協議会議事録

校名	府立むらの高等支援学校
校長名	森本 裕

開催日時	令和 4 年 7 月 11 日 (月)
開催場所	共用棟 2 F 会議室
出席者 (委員)	(会長) 荒木 寛巳 (副会長) 大森 千枝 (委員) 石神 彰人 上國料 洋子 三瀬 吉彦 柏木 光枝 ※順不同、敬称略
出席者 (学校) ※回覧	(校長) 森本 裕 【事務局】(教頭) 野村 佳津 (事務長) 清水 幸雄 吉田 聖名子 速水 彬裕 重松 亮 活田 侑 阿南 幸佑 上田 航 岩里 哲朗 藤川 泰生
傍聴者	なし
協議資料	①協議会次第 ②協議会委員名簿 ③参加者名簿 ④実施要項 ⑤運営計画 ⑥令和3年度/令和4年度 学校経営計画及び評価 ⑦時間割表、校時表 ⑧教育課程表 ⑨進路年間計画、5期生進路状況 ⑩令和4年度教科書採択 ⑪「Smile&Music」振り返りアンケート ⑫土曜参観アンケート ⑬協議会傍聴に係る要領
備考	後日、議事録を学校ホームページで公開

議題等 (次第順)
1) 資料確認……………教頭より 2) 校長挨拶 3) 委員、事務局紹介……………教頭より 4) 協議会実施要項・運営計画……………教頭より 5) 報告 ・意見書の提出について ・R3 学校経営計画/評価、R4 計画 ・R4 時間割・教育課程について ・進路指導計画/5期生進路状況について ・R4 採択教科書/R5 選定状況 ・R4 むらの「Smile&Music プロジェクト」実施報告 ・土曜参観アンケート集計結果 6) 協議 7) 校長挨拶 8) 事務局より
協議内容 (質問・意見の概要)
【委員からの質問・意見】 ・自身が講師を務める大学の教職課程の授業において、知的障がい者に対する職業教育の在り方をテーマとしている。就職後の定着を重視すると継続的な支援の必要性を強く感じる。 ・94%の就労定着率は素晴らしいが、同じ職場で働き続けることがすべてではない。残り6%の卒業生のその後についても知りたい。 → (進路) 同窓会が情報源のひとつ。3期生の離職者3名のうち1名は真面目にがんばったが、職場での励ましの言葉が逆にプレッシャーになっていた様子。就ボツと相談せずに本人および家庭の判断で離職→再就職の卒業生も。 ・コロナ渦においては難しさもあるが、本人・家族と連絡を取って、退職する前の対応に期待する。 ・進路状況の数字だけでなく、内容を把握されていることが素晴らしいと感じる。 → (校長) 就労率、定着率ともに学校としては100%をめざして最善を尽くすが、あくまでも生徒の実態を踏まえて適切に進路指導、支援を行うことが重要と考えている。 ・就職したての頃とその後数年を経た時点では、子どもたちが抱える課題の質も変化する。心の成長に応じた支援が必要と感じる。

- ・A 型福祉事業所の関係者の話では、「作業する力ではなく作業を組み立てる力を重視して見極めていく」とのこと。働くための技能の育成ではなく、働き続けるための力＝仕事に向き合う力について学校でどのような学びの機会があるのか知りたい。

→（校長）本校における清掃の授業の一例として、室内清掃作業の段取りを生徒自身が組み立てて実施している。

- ・支援学校における卒業後の進路に係る（公開を目的とした）データの追跡はどの程度の期間求められるのか？

→（校長）原則として1年間。それ以上の長期にわたるデータが別の目的で活用される場合もあるが、数年にわたる追跡支援は教職員の異動などの事情もあり現実的に難しくなる。

- ・就ボツで支援学校6校を担当しているが、むらの高等支援学校の成果は群を抜いていると感じる。

就職後に辛くなる要因の一つとして、「学校では結果に向かうプロセスを評価されるが、職場では結果で評価される」という対応の違いへの戸惑いが挙げられる。

就職後のつまずきの原因や実態、対処方法などに係る学習は、学校で取り組まれているのか？

卒業生がSOSを発信できる場の設定が大切。現在むらので年1回取り組まれている、卒業生を講師に招いての進路学習は、センターの立場から言えば3ヶ月に1回の割合でも良いと感じる。

転職に伴う新たな進路決定について、一人で決めるのか、或いは信頼できる大人との相談を通して決めるのかで、その後の人生設計は大きく変わる。

- ・（保護者の立場より）高等支援のPTAの会合で得た情報では、ほとんどの保護者は子どもの就職をゴールだと考えている。自身もかつてはそうだったが、現在は就職はスタートだと考えている。

卒業と同時に多くのサービスが受けられなくなる現実。仕事を辞めたらどこを頼ればよいのか悩む保護者は多いと感じる。

就ボツの名前も最近に知った。1年生の段階では知らないのが普通。保護者にも進路に係る知識が必要だと痛感した。今後PTAの活動を通して保護者の意識向上を図りたい。

教育庁にも働きかけて、学校内への相談窓口の設置を要望したい。

【委員による協議】

- ・「いざという時のSOSの発信の仕方」について、在校生にどのように学ばせている？

→生徒は「キャリアデザイン」の授業において卒業後の生活をイメージして具体的に学んでいる。

→その他、特定の授業にこだわらず、学校生活や授業等を通してトータルの学びを実現している。

- ・地域との連携強化についてはどのように考えている？

→枚方市からの連携依頼により実現した取り組みがある。リビングデザイン科クリーニング分野で継続的に取り組んでいる近隣保育園への洗濯物の集配作業や、「Smile&Music プロジェクト」もその1つ。フードデザイン科農園芸分野に対しては、果樹を苗木から育てて収穫物を地域の名産品とするプロジェクトの依頼もある。

→内容を精選して実現可能なものについては前向きに検討していきたい。

- ・中学校の支援学級には障がいのある生徒が多数在籍しているが、府下の高等支援学校の一部で定員割れが生じているのが現状。知的障がいのある生徒の高等学校への進学については課題もあり手放しで奨励できない。高等支援学校が存在感を示す必要を感じる。

- ・在校生の進路決定の一助として卒業生が講師を務める取り組みは、働く卒業生自身にとっても誇り（働き甲斐）となると感じる。

- ・今回の協議会では参加された皆様から大変多くの質問や意見を頂いた。引き続き、今後の学校の取り組みに期待したい。